

第1回「函館TOM向上推進事業」映像制作検討懇話会 会議録

【開催日時】 平成29年6月28日（水） 10:00～12:00

【開催場所】 函館市役所8階第1会議室

【出席者】 委員）奥平委員（座長），山口委員，若松委員，大場委員，
岩田委員，中尾委員，佐々木委員，安立委員

事務局）函館市企画部

種田部長，田畑計画推進室長，竹崎政策推進課長，
山口主査，菊地主事
函館市教育委員会学校教育課教育指導課
阿部指導主事

【次第】 1 開 会

2 挨拶 函館市企画部 種田部長

3 出席者紹介

4 議 事

(1) 本懇話会の設置について

・事務局から説明

(2) 座長選出

・函館工業高等専門学校 奥平教授を選出

(3) 函館TOM向上推進事業について

・事務局から概要説明

(4) 意見交換

・以下のとおり

(5) その他

5 閉 会

議事（4）意見交換 発言要旨

【奥平座長】

ただ今事務局の方から函館TOM向上推進事業に関するこれまでの経緯や市の考え方についての説明を頂戴しました。

説明のありました内容につきまして、皆様からのご質問ご意見などを頂戴したいと思います。いかかでしょうか。

【安立委員】

これから詰めていく所だと思いますが、制作する最終目的のDVDの時間とかボリューム感、予算とか何か意識しておくべきことはありますでしょうか。

【事務局】

映像のボリューム感・予算についてですが、我々の方でイメージを持っているかというところではないのですが、後程大場先生に学校でどのように副読本が使われているかをご説明いただきたいと思います。一つの観点としては、例えば学校の授業の中で使うとすれば、あまり長くない40分なり45分の中でやるには、どうしたらいいかをお話いただければと思いますし、またもう一つの観点としては、色々なものを詰めていくとボリューム的に1本で足りるのものなのか、もしかすると各論と総論とかに分けたりする必要があるとか、そういったスタイル的な所も議論いただければと思います。

予算に関しましても、これもまだ何もないものですから、逆にどういうものが望ましいのかという観点でお話をいただければと思いますので、あまりお金が足りないからということで議論をとめないでいただければと思います。

【奥平座長】

他に何かございませんでしょうか。

【佐々木委員】

DVDが出来たとしまして、どれくらいの使用スパンを想定されていますでしょうか。

【事務局】

DVDの使用スパンですが、そこも中身にもよるのかなと思っています。

例えば内容が陳腐化してしまうような新しい事象であるとか、そういったものについてはどうしても時代がさがっていくと意識が変わったり中身が変わったりがあるんだろうと思っています。

ただ、そうではない過去の歴史などは、ある程度のスパン使えるものになるのかなと思っています。

毎年更新していくものになると費用的にもかかりますし、ある程度使えるもので考えていきたいと思っています。

【奥平座長】

他に何かご質問ありませんでしょうか。

【岩田委員】

私、中学校という立場でお話させていただきます。

中学校では、中学校1年生で地域学習というのをやっております。ほとんどの学校は西部地区に行って探索しています。その時に事前の学習ということで、いろいろ調べるんですけども小学校の時に勉強してきても分からない部分がいっぱいあるので、出来れば小学校と中学校を繋いでいけるようなものが出来ていけばいいのかなと思います。

【奥平座長】

事務局からいかかでしょうか。

【事務局】

小学校3・4年生というのが一つのターゲットだと我々思っております。

まず、そこがきっかけになると思っております。

ただ、そこで終わるものなのか、もっと5年生6年生あるいは中学生なども視野に入れながら物事を考えていかなきゃいけないという観点もありまして、そこも現場のご意見も含めていろいろと考えていきたいと思っておりますので、その部分についてもご検討いただければと思います。

【奥平座長】

他に何かございませんでしょうか。

実は高等学校で函館学をやっているところがあります。

そう考えると小学校・中学校・高校までも入ってくるんだなということも考えていく必要があるのかなと思います。

【中尾委員】

小・中・高まで話ができましたけれども、限られたボリュームの話もありますし、ターゲットを絞ってやらないと、焦点ボケになってしまいます。

今回は小学校と、ある程度ターゲットを絞られた方が今後の展開がし易いのではないかと思います。

【奥平座長】

私としては、広がるとすればここまで広がりますよという事例を示させていただきました。

ここについても、後程議論していく部分になると思っております。

他に何かございませんでしょうか。

【中尾委員】

副読本を意識したDVDを作るのか、意識しない形でDVDを作るのか。

そこは現場の先生方の、色々なご意見があると思いますが、その辺もいずれ議論していただければと思います。

【奥平座長】

副読本をベースにするのか、それともベースにしないのか。

こちらについても、後程議論していきたいと思っております。

他に何かございませんでしょうか。

【安立委員】

意見を出す前に、現状の意識把握が重要だと思います。

例えば現状で使われている映像の教材にどのようなものがあるのか、また子供達の意識調査といったものがあるのか、他の地域で何か動画素材で成功しているものがあるのかなど。

そのような前提条件をしっかりとスタートしたいと感じております。

【事務局】

前提条件が必要だということですが、後程、「わたしたちの函館」が現状どう使われているかということをお大場先生にご説明いただくほか、他の事例も含めて我々の方でも調べて次回の検討懇話会までに何かしら提供したいと思っております。

【奥平座長】

安立委員からありましたニーズ把握については、ターゲットを絞ってからでも

いいのかなという感じがしております。

本編については、よろしいでしょうか。

それでは、続きまして意見交換の前に小学3・4年社会科副読本「わたしたちの函館」の利用状況につきまして、大場委員からご説明を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

【大場委員】

改めまして、千代ヶ岱小学校に勤めております大場と申します。よろしく願いいたします。

それでは資料を用意いたしましたので、そちらを見ていただきながらお聞きいただければと思います。「小学校第3学年および4学年の社会科の副読本について」という資料です。

小学校の3・4年生の社会科、この社会科に限らず小学校の学習は文部科学省から示されている学習指導要領に沿って学習が進められます。

小学校3・4年生の社会科では、目標がいくつかありますが、資料の中で赤字で示しましたように地域・地域社会という言葉がございます。小学校3・4年生は、まさしく地域に目を向けて社会科の学習を進めていくということとなります。

波線で示しましたように、観察や調査を中心にしながら、場合によっては資料を活用しながら学習を進めることとなります。

学習内容につきましては、資料の中で青字で示しましたように「地域の産業や消費生活」、「健康な生活や良好な生活環境および環境を守るための諸活動」や「地域の発展に尽くした先人たちの働き」等となります。

目標を受けて、具体的な内容をその下に示させていただきましたが、特に青字を見ていただきますと、生産や販売についての具体的な内容、また、安全を守るという諸活動について、どのような事例をとりあげるかということが示されております。

小学校では、これに沿った教科書に基づきながら指導計画を立てて、そのうえで副読本を活用しながら授業を進めていくこととなります。

2枚目の資料をご覧ください。

函館市の小学校の3・4年生の社会科の学習につきましては、教育出版の教科書を使用しております。指導時数は、3年生が70時間、4年生が90時間です。指導の時間と内容を計画したものが指導計画であり、各校では、学校の現状に応じて指導計画の工夫・改善を進めながら、授業を進めております。

具体的に教科書と副読本がどう結びついているかということをお話することによって、副読本が授業の中でどう活用されているかということをご理解いただければと思います。

資料の中央に教科書、左側に学習指導要領、右側に副読本の内容を記載しております。

まず3年生が最初に学習する内容は、「私たちの住むまちについて」です。自分達が住んでいる地域・学校区について学習することになります。

学校区の北、南、東、西は、それぞれ町並みや地域の様子がどのようになっているのかということ、実際に探検・調査し、絵地図にまとめる活動を通して学習を進めます。各学校区ごとの学習となりますので、副読本には記載されていません。教科書に示されている学習方法に沿いながら、学習することとなります。教科書では横浜市を例に取り上げながら、学習の進め方を示してあります。

その次が、自分たちの校区から目を広げ、市の全体の様子を学習するというこ

とになります。市の様子を地図や写真・資料を活用しながら、市の形や交通網など、さらに、土地の高低や利用のしかたなどを学習していきます。

このことに対応して、副読本3ページから市全体の図や絵地図と解説が載っております。そして水産業が盛んな所、工場の多い所、函館の町の広がりなど市全体を見渡す内容になっております。更には、函館市と旧4町村との合併に伴い、旧4町村に関わる内容も載せております。

そして、16ページから土地利用の様子をまとめ、函館市内の主だった公共施設等載せ、私達の住む函館の概観を捉える学習になっています。子供達はそのような学習を通しながら、市を紹介するポスターやパンフレットを作るなどの活動を通して学習をまとめることになります。

それでは、次の資料をご覧ください。

次は働く人々に焦点を当てた学習へと展開していきます。

教科書では横浜市を例にしておりますが、お店で働く人々、それから工場働く人々を取り上げております。

お店で働く人々と仕事の学習は、自分達の家庭での買い物の様子、そして自分達の家庭で主に買い物に行くお店として、スーパーマーケットを取り上げております。

子供達はスーパーマーケット見学を通して、お店の様子やそこで働く人達の仕事内容や工夫などを学習したり、またはスーパーマーケットとは違うタイプのお店について学習をします。実際の見学を中心に学習が進められるため、副読本には記載はありません。ただ、あまり目にする事が無いであろう移動販売車等については参考資料として副読本に示しています。

続いて、工場働く人々と仕事の学習は、教科書では横浜市の焼売工場を取り上げておりますが、副読本ではいかなの塩辛工場を取り上げております。

塩辛が作られる工程、工場働く人の仕事や配慮・工夫していること、原材料の仕入れや製品の発送先などを載せております。

多くの小学校が塩辛工場を見学していると私は受け止めておりますが、学校によっては、毎年見学できない場合もありますので、見学したことを思い起こすのに活用したり、また見学した後、学習をまとめるにあたって、再確認のために副読本を活用しています。

3年生の最後の学習になるのが、「変わるわたしたちの暮らし」です。教科書では横浜市を例にあげ、地域の祭りを取り上げ、祭りを保存・継承する地域の人々の取組を学習するようになっております。副読本では、港祭りを取り上げ、学習への動機付けとしています。

その後、「昔の道具と暮らし」へと進みます。おじいさん・おばあさん世代、父親・母親世代、そして現在に分けながら、その時々の暮らしの様子を調べてます。学習をもとに、年表にまとめ、生活の移り変わりを学習します。

教科書では、郷土資料館見学を通して学習を進めるようになっておりますため、副読本では、郷土資料館（旧金森洋物店）を載せています。

その後、暮らしに使う道具として七輪や電話機を取り上げつつ、家での聞き取りや資料から絵カードを作り、それをもとに、道具や生活などの移り変わりをまとめます。

教科書では、学習の発展として昔マップづくりが示されており、これに対応する形で、様々な歴史的な出来事や人物、それに関わる場所や施設等を載せています。パネル作りを通して、昔の人々の様子や願いについて考える学習になっています。

ます。

次の資料からは、4年生の学習になります。

「安全なくらしとまちづくり」では、警察署に関わる学習、次に消防署に関わる学習へと進んでいきます。副読本には、関係する統計資料等や、交通管制の仕組み、函館市の消火栓について載せています。副読本と合わせて、警察署・消防署見学を通して、くらしの安全を守る人々について学習します。

次は、「健康なくらしとまちづくり」となります。

教科書ではごみや飲料水を取り扱っており、それに準じて副読本でも取り扱うようにしております。ページ数の制約等もあることから、ごみについての学習は函館市が発行している冊子「くらしの中のごみとエコ」を活用しながら、家から出るごみ調べやごみ処理の過程について学習します。

飲料水についての学習は、函館市の企業局が発行している資料「はこだての水道と下水道」を参考に、浄水場の仕組みや水源となる森林等の状況などを副読本に記載しています。

4年生で最後の地域学習となるのが、「昔から今へ続くまちづくり」です。

教科書では、横浜市吉田新田を開いた吉田勘兵衛さんを取り上げています。それに照らし、副読本では、函館市の生活用水や水道の整備と、関わりのある先達を取り上げています。先達として、堀川乗経さん・時任為基さん・小野基樹さんの3人の偉人を取り上げ、人々の生活と水、そして先達の関わりについて学習します。

旧4町村の学校については、その地域にあわせた内容として、戸井・恵山・楯法華・南茅部それぞれの地域の発展に貢献された人物を取り上げて載せております。

これ以降の学習は、函館市から北海道全体へ広がっていきます。教科書では福岡県をとりあげております。副読本では、「わたしたちの北海道」として、特色ある地域や北海道全体の様子などを取り上げております。

このように学習指導要領に基づいて作られる教科書をベースにしながら、函館市に合わせた副読本を作成し、社会科の学習に活用しております。

【奥平座長】

ありがとうございました。

皆様方から、副読本の使い方または内容について、ご質問等お聞きしたいと思っております。

【山口委員】

ちょうど去年、教育大学の3年生と一緒に副読本を改めて読み直してみまして、教科書と並べながら函館の副読本の良さがどこなのか改めて確認するという取り組みをしました。

先ほど大場委員がおっしゃったように上手い具合に教科書と融合がはかられている。教科書で勉強すればいいことは、そちらで勉強して、函館特有のことは副読本で勉強してと、いったりきたりしながら勉強しており、いいなと拝見していたんですけども、実際子供達の情報の受取だとか、あるいは発信などの視点からすると、多分子供達の様子も多様化していますから、実際に3年生だとか4年生で担当されている先生方で、この所はもの凄く上手くいったんだよとか、あるいはここは凄く難しかったんだよとか、昔のように一様ではないと思います。

最近副読本を使ってらして、ここの所は難しいですよとか、あるいはここは上手くいきましたよというような、実際に使われている教育の現場で、どのような意見を把握されているか教えていただけないでしょうか。

【大場委員】

副読本は、毎年、改訂を行っております。改訂にあたり、指導されている先生方の意見も踏まえて、進めています。

例えば、新幹線が開通しましたので、これに合わせて、改訂いたしました。

今年度も改訂を進めていく際に、編集委員の先生方を通して、現場の意見を拾い、「わたしたちの函館」を使いやすいように、改訂の内容を協議し進めています。

ここ数年は、小幅の改訂にとどまっています。各先生方には、一定の受け止めを頂いていると思います。また、改訂に関わる時間にも限りがありますので、副読本の内容や活用面で、具体的な交流、検討までにいたっていないのが現状です。

【山口委員】

上手く副読本の編集委員会の先生方の声をこちらの方に届けていただいて、その情報が得られるというのが理想だと思います。

【奥平座長】

他に何かご質問ございませんでしょうか。

【安立委員】

中々現場のことを知らないものですから、なるほどと思ってお伺いしていました。

社会科見学といいますか実地に見に行く所が何カ所かできておりましたが、塩辛工場・浄水場・警察署・消防署の他にどこか子供達が行っている所はありませんでしょうか。

【大場委員】

3年生では、自分達の学校の周辺を方面に分けて見学・調査します。

また、スーパーマーケット見学は、ほぼどの学校も行っていると思います。

場合によっては、魚屋さんとか八百屋さんとかの方を、ゲストティーチャーという形で学校に来ていただき、仕事の工夫や苦勞などを伺うこともあります。

学校によっては、近くに施設がない、よい交通手段がとれないなど、様々な条件があります。そのような場合は、社会科見学を計画し施設見学を行う場合があります。

また、笹流ダムのように、遠足の目的地が、社会科学習と関連付けることができる場合があります。

【安立委員】

暮らしに密着した所に行かれるということですね。

【大場委員】

はい、最初に説明いたしましたように、学習指導要領に沿って学ぶ内容が計画されていますので、それに沿って見学、調査することになります。観光スポットだけではなく、人々の生活との関わりで学習が進められます。その視点で、教科書を補完するように「わたしたちの函館」が作られているとご理解ください。

【安立委員】

観光スポットだけではなくということですが、逆に愛着を持つために観光スポットなど、すぐに思い浮かぶような所はどうでしょうか。

【大場委員】

そのような所の中には、載っていない所があります。

【奥平委員】

ありがとうございます。

「わたしたちの函館」は生活視点の方が圧倒的に強いのかなという感じがいた

します。観光という部分はそんなに入っていないのかなど。それもまた今後の議論にもなるかと思えます。

他に何かございませんでしょうか。

【若松委員】

観光という点もですが、私が見た印象として地理・歴史的視点が薄い感じがします。

私として川は地域愛にイメージとして繋がっていく感じがあります。例えば周りの山、普段の山を見ていて、あの山なんていう名前だったろうかと思うのですが全然分からない。いっぱい山は見えているんですけども、それぞれの山の名前が出てこない。

結構こういうのが地域愛に繋がってくるような、普段眺めている山の名前を知っているだとか、普段使っている川の名前を知っているだとか。直接自分の目にするものに繋がるような情報がもうちょっと見えるようなものがあればいいなと思えます。

私自身、3年生の時に自分の地元の副読本を見て、一番読んだのは歴史の所です。

小学校に入って初めて地理とか歴史に触れるのはこの副読本ですので、私はむしろなるべく本物の地理・地図だとか本物の歴史に触れる部分を多くしていった方がいいのではないかと思います。

学習指導要領に沿らざるを得ず、暮らし重点なのは分かるけれどもという印象です。

【大場委員】

副読本について、この場で説明するために、社会科の学習や教科書と副読本の関わりについて資料で示させていただきました。

社会科の学習内容、限られた予算とページ数、前年度版を基にした改訂を踏まえて、今年度の副読本の内容となっております。

この事業で作成するDVDが、ご意見いただいた視点も含めて、副読本を補完するような方向で作られるのであれば、ありがたいと思えます。

その際には、副読本編集委員の先生方の意見もお伝えしながら、進められるとよいと思えます。

【奥平委員】

ありがとうございます。

副読本は、ベースとしては非常にいい材料になると思えますので、それを何とか活かして、どういったものを作っていったらいいのかの方向性を出していければいいのかなと思っております。

他に何かございませんでしょうか。

【中尾委員】

2年ぐらい前に、今回の新しい物ではないですが、北斗市・函館市両方の副読本を見せていただく機会がありました。目次を開いてぱっと見た感じが両方とも同じということは、文部科学省の学習指導要領に従わざるを得ない、函館市独自に作れないという初歩的な勉強をさせていただきました。

ですから教科書に準拠しなければならないし、全ての凄いい制約の中でやらなくてははいけない。

例えば水道の所が10ページもあり、何でこんなにあるのかと思えますが、お話を聞くと書かざるを得ないのだなと思えました。

暮らしという視点がはっきりと示されていますので。

水道の歴史は重要ですが、函館の大火の歴史がほとんど載っていないのは残念です。それがあって函館の観光資源に現在繋がっているという所も書きたい所だけでも学習指導要領に準拠すればやむを得ないものかなと思います。

それがDVDで、次の発展にいければと思います。

【奥平委員】

ありがとうございました。

補完というお話が今中尾委員の方から出たと思います。

【安立委員】

授業の中で、使っている動画素材とか、そういう映像の教材というのは何かありますでしょうか。

【大場委員】

先生方は、工夫して授業を行っています。副読本の資料や写真意外にも、インターネットにある様々な動画を活用して授業づくりをしています。

私も学級担任をしていたときには、効果的な資料などを探し、子供達により伝わるような学習をと工夫した経験はあります。

【安立委員】

公式なのは、今回が初めて作るということでしょうか。

【大場委員】

その通りです。

【安立委員】

現場の授業の中で、写真を見せるだとか番組を録画したのを見せるなどは行っていますでしょうか。

【大場委員】

私の場合ですと、地域学習ではありませんが6年生の歴史の学習の中で、太平洋戦争に関わるNHKの番組などを活用した経験はあります。

先生方は、子供達に学習内容がより伝わるように工夫して授業づくりをしています。

【奥平委員】

公式、一般的な物はなく、各自それぞれに任されているということになっているというお話でした。

それでは、他に何かありませんでしょうか。

【山口委員】

私の子供の話ですが、安立委員がおっしゃったことに関して言いますと、私の子供を担当してくださった先生方は、映像というよりは、例えば空き教室を使ったりして、本当に昔使っていた道具でこういうのがあると実感でわかるようにと先生方お考えになって、おじいちゃん・おばあちゃんから借りられるものは借りてきなさいという形で集めさせたようです。いくつか教室に持ってきて、子供達の実感でこれはもの凄く昔だとか、これはちょっと昔だとかを考えて並べ替えをして、次に自分達でポスターを作ったり、カードを作ったりして、子供達も年表を作るということを最終的になされたみたいですが、その道具・教材として、それぞれの家庭から持ち寄ったもの使っていたようでした。そのような感じで3・4年生は使っているようです。

もう一つ映像もおっしゃっていますが、NHKの方で学校向けにストリーミングでクリップを豊富に提供されていますので、ネット環境にも依存しますが、

必要に応じて利用されているようです。

【佐々木委員】

今NHKでは「NHKforSchool」というHPを立ち上げております。

そこには、映像の権利処理を行ったものを含め、学校の教育現場で自由に使っていただける自然・世界の気候・動物等のビデオクリップがあります。それは全国の学校の先生方に非常によく使っていただいております。

それ以外に、先生方が自分の判断で、自分が録画したもの、それはEテレだけとは限らず、今でいう「歴史秘話ヒストリア」、昔でいうと「その時歴史が動いた」や「NHKスペシャル」等といったものを録画したもので、授業で使える部分をつまんで学校の教室で見せるということも全国で広く行われております。

NHKのEテレの番組は全国の先生方からのご意見を聞いたりして、やはり学習指導要領に沿ったものを届けていますけれども、普段の総合テレビの番組はそうではなく広く一般の視聴者が対象です。ただそういう中でも使われているものは結構あります。

ちょっと話を戻しますけれども、私は2つの考え方があると思います。

一つは、副読本にのっとしてやるという、これが一番オーソドックスな展開でございまして、今までそういったものがなかったから、そういったものを作ろうという考え方があると思います。

本というのはストック、映像というのはフローの情報になります。ストックとフローを上手く組み合わせて子供達の意識をより向上させる、これが一つあると思います。

もう一つは、学校の授業の中で行う限り学習指導要領から逸脱することはできないと思いますけれども、何かこうちょっとでいいからフローである映像を見た時に、1人でも多くの子供達の琴線に触れるもの、私はこれをこれから皆さんと相談していきたくて思っておりますけれども、そういう映像をあえて作るということも一つあるのかなと思います。やはり子供達が自分の住んでいる所を好きだよ・いいよって思うために、一番重要だと思うのは、大人達がそう思うことだと思います。子供達は親の背中や周りの大人達を見て育ちますので、そこにプラスアルファの固有のもの、歴史的なものとか、自然とかそういうものがミクスチャーされることによって、知らず知らずのうちに、そのような気持ちが育つのだと思います。

私は函館の出身ではないですけれども、今でも自分の故郷のことを思い浮かべる時、不便だったというよりは、遊ぶ所がいっぱいあったなという風に、ふと自分のことを振り返ってみた時に思います。

副読本のプラスアルファとなるものを作るのか、指導要領にのっつけた中で、きらっと光る何かの引き出しを少しでも多くしてあげるための素材として作るのかという二つの考え方、その方向性を決めると今後の検討懇話会で、具体的にどのような話題でどのようにやっていくのかという方向性が少しずつ見えてくると思います。

【奥平委員】

今おっしゃっていただいたのは、副読本と相互補完でやっていくのが一つのやり方、もう一つは完全に副読本ではなく、子供達の琴線に触れる映像、いわゆるきらっと光る映像の映像集というのを目指していくのかという、二つの方向性をお示しいただいたのかなと思います。

これもまた、今後議論の材料になっていくというよりは、この大きな方向にな

っていくのかなと思います。

他に何か皆さんございませんでしょうか。

それでは、皆様まだお話足りない所もあるかと思imasので、この事業を進めていく上で、地域愛を育てることや、いわゆる函館人の気質などについて皆様からのご意見を頂戴していきたいと思imas。

それでは、ご自由にご発言いただければと思imas。

【安立委員】

観光振興という仕事柄、観光PR動画というものに触れることが多いのですが、函館のまちのそれこそ「きらっとした所」を見せて、全国の方に「函館いいな、好きだな」って思っただくことが主題であります。そこで、用途は違えども、やはり歴史とか自然とか観光につながるような視点は、子供達に函館を好きになってもらうためには、参考になるのかなと思imas。

学習指導要領と違う方向でいいのかどうか、そういった点を確認して、この事業を進めていかなければいけないと思imasが。

【奥平座長】

授業で使うとなると、学習指導要領の縛りがどうしてもかかってくると思imas。

そうなりますと授業というか、その教科、例えばこの場合社会科とか生活科とかになると思imasけれども、そういった部分じゃない部分で、子供達が見るといふ風に持っていくのか、またもう一つの方向性としては、教材としての補完でもっていくのかという、先ほどのお話に戻るのかなと思imas。

教材と映像の抱き合わせ、もう一つは新しい地域・まちの魅力に触れるというような斬新な内容でやっていくのかということの選択が迫られているのかなという感じがしました。

安立委員は斬新な方がいいのでないかということですので、そうなりますと授業にこだわるのか、それともこだわらないのかという部分も皆さんとお話したほうがいいのかという所になると思imas。皆さんいかかでしょう。

【山口委員】

先ほどゲストティチャーのお話がありましたけれども、ゲストティチャーに来ていただいた場合、例えば教科書ではこうなっていますからといって、ここからここまでしか話さないでくださいというよりは、むしろ生の声を届けていただいた方がいいわけで、むしろ教科書の方が言葉は変ですが邪魔になるということもありえるのかなと。

総合的な学習が登場してからは、まさしくこの事業にぴったりの地域をきちんと見つめましょうということが生活科や総合的な学習で挙げられており、ある高校では函館学という形でなされていますので、そういった手段だと思imas。

そうすると今回この事業で、色々教材作りましょうということになっていますので、それが場合によっては、総合的な学習だったり、場合によっては社会科であったりと、どちらでも使い勝手がいいのが理想形ですけれども、中尾委員がおっしゃたようにある程度ターゲットを絞らないと何のための教材なのかということになってしまいます。

ただ制約という部分ではかつてほど厳しくはなく、むしろそれは学校なり、その地区の特色をどうやってだせるかということが、国の求めていることですので、そこには我々の事業が上手くフィット出来れば、いい事例になるのではないかと思imas。

【奥平座長】

ありがとうございました。

このままで、新しい特徴を取り入れてもいいということですね。

そうすると、ある程度作るフリーハンドというのがでてくると思います。

【大場委員】

今回、3・4年生の社会科の学習と副読本との関係を説明させていただきました。それは、当初、3・4年生の学習に視点を絞った映像を作っていきたいということが、映像制作懇話会の出発点にあると受け止めていたからです。そのような視点で、説明の任を与えられお話させていただいたと思っております。

ただ今のお話のように、そのことにこだわらないとすのであれば、学校ですと、総合的な学習の時間において地域の良さを学ぶ学習に活用するという視点もあると思います。

また、先ほどの2番目の視点から映像を作る場合、社会科の授業づくりから考えますと、学習や単元の導入時に、子供達の興味関心や意欲を高めるという観点を踏まえて、作成して頂けるのであれば、一つの方向性であると思います。

【奥平座長】

それでは岩田先生どうでしょうか

【岩田委員】

私も全く一緒の考えです。子供達の考え方が広がっていき、そして子供達がまた独自に自分の視点を加えていけるようなものにしていくためには、やはり新しい視点、副読本だけにこだわらないという形の方がいいのかなと思います。

焦点は副読本に絞ったとしても、そういう考え方には賛成です。

【中尾委員】

私は、まち案内をしておりますが、一番は大人です。子供以前に大人が知らなすぎる。まち案内の終わりに、私の話を家に帰ったら、もしお孫さんがいたら、一つや二つ必ず伝えてくださいという話をします。

それから、ある高校では伝統的に「函館学」という講座があります。そのため多くの専門家が講師として出かけています。

その学生たちがどれだけ函館に興味があるかの事例を一つ申し上げます。

函館・道南を学ぶための「はこだて検定」があります。初級の合格率は45～50パーセントぐらいです。学生であれば70パーセント以上合格しても不思議でないと思いますが、数年前の話ですけど、驚くことに10パーセント以下だったのです。残念ながら学生が郷土の歴史や文化に全く興味を示さないのが現状なのです。

今函館で約3000人の人口が流失しており、そのうち半分近くの1500人は高齢者の自然死ですから、これはどうしようもない。残った1500人のうちの700人は18歳以上の方が進学・就職で函館を去って行っています。

その人達が行った先で、どこから来ましたかと聞かれた際に、函館と答えると大変イメージがいい。大変好感度を持って迎えてもらえるのは、間違いないです。

ところが、函館ってどんな町なのかと、もし問われた時、答えるのは2つしかないんです。夜景とイカ刺しです。恐らく極端な言い方すると、これしか発言できない可能性があります。

これらの状況を勘案しますと、できるだけ低学年のうち、例えば3年生・4年生から何らかの形でインパクトのあるものを与えてあげないと、何十年もこのままの状況が続くということは問題だと思えます。また函館の観光大使が300人

位いるそうなんです、その人達よりも18歳で毎年700人函館を出て行く人達が、我がまちを誇ってくれたら観光大使の何倍、何十倍の効果があるということです。

毎年700人も出て行かれると困るんだけど、これからも出ていく可能性がある、そのためにも小学生からやはり、そこを何とかしてほしいという要望です。

【奥平委員】

ありがとうございます。

今ちょうど、ターゲットをどこに絞るのかという所で中尾委員は3・4年生あたり、3なのか4なのかというのがありますけれども、この二つの学年に集中した方がいいというご意見を頂戴したと思います。いかがでしょうか。

ちょうどこの場ですでに、ターゲットを絞ってしまった方がいいと感じますけれども、小学校のいわゆる中学年に絞った方がいいかどうかについて皆さんのご意見を頂戴したいと思います。

【中尾委員】

3・4年生と5・6年生では、かなりのレベルの差というものはあるのでしょうか。小学生に幅をひろげると、どういう影響があるのか教えていただければと思います。

【奥平座長】

実のところ高学年になると地域のことを勉強しなくなります。

地域学習をやっているのは、ちょうど今3・4年生が最期じゃないかと思えます。その後になると、それこそ日本の地理・日本の歴史とか、いわゆる地域が広がるということになりますので、自分達の地域をピンポイントに扱っている学年は3・4年生ぐらいだと思います。

【山口委員】

社会科に限ればそうです。総合学習まで広げれば、6年生で環境の学習などで校外学習も含めて西部地区に行きますだとか、中学校にあがったら中学生の視点で周りますというようなものもあります。

【奥平座長】

社会科にこだわらないとすれば、小学校高学年ですね。

そういう形での絞り込みでいけば、もしかすると若い子供達に函館の良さを映像を使った形で教えていけるのかなという感じはします。

皆さん一応ターゲットを高学年ということにしておきませんか。

また、話をしていくうちに、やはり、これはちょっとターゲットを絞った方がいいという話になるかもしれませんが、その時、またお話をするという方向にしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

とりあえずは、ターゲットは小学校高学年ということで行きたいと思います。

改めて、皆さんからいろんな話をお伺いしたいなと思うわけなんですけれども、私から一言、この「わたしたちの函館」を見て、昔の方が読みやすかったと感じるのは私だけでしょうか。読みにくくなったなという感じといますか、私達の頃は「わたしたちの函館市」だったような気がします、縦書きで文字が凄く小さくて余り写真がないという記憶があります。

そう考えると、世代にもよるかとは思いますが、昔と比べて情報量が圧倒的に増えたなと思います。はこだて検定の時に使えるというくらい内容が入っていますので、これは現場は結構大変だなという感じはいたしました。

現場では、例えば小学生の副読本についての感想はどうでしょうか。

【大場委員】

副読本に関する児童アンケートのようなことは行っておりませんので、ここではお答えできません。

【山口委員】

やはり資料集としての性格が強まっていると思います。

昔は読み物として素直に読んでいけば、なるほどという風にすっと落ちるといのが昔のつくりでしたけれども、ここ十数年で、教科書のグラフや写真が増えましたので、先生方も担当されている児童に、ここの所は重要、ここの所はサンプルというような形で見分けを付けさせないといけないし、子供の方も、どうやって活用するのか考えないといけないという。

情報量が増えていますので、本当に大変だと思います。

【奥平座長】

他に何かございませんでしょうか。

【安立委員】

私自身も函館で育ったわけではなく、外からきた人間ですから、函館凄いなど思う部分が非常に多いのですが、意外に函館生粋の方が「たいしたことないよ」っておっしゃるような場面によく遭遇します。

当たり前だと思っている周りにあるものが、こんなに凄いんだよっていうのを、他者の目といたしますか、何か他の基準みたいなものを持ち込むと、ああそんなに凄かったんだっていう事に気づけることも多いですね。

仕事で函館をPRするために、色々なネタを提供する場合に食いつきがいいものとなりますと、やはり「ミシュランガイド」に載ったレストランが何軒もあるとか、皆さんご存知の「ブランド研究所」の毎年の調査結果など、これはニュースを出しますと本当に凄いアクセス数になります。また、「トリップアドバイザー」という観光の情報提供で定評のあるサイトから、夜景が1位になりましたとか、朝食のおいしいホテルで函館のここが何位ですとか、そういう基準が示されると、市民のかたも他の地域と比べていかに優れているかということを誇りに感じたり、わー凄いなって感じるのは、手応えとしてあります。そのほか、歴史的に見ても日本で一番だったとか、北海道で一番だったとか、函館がかつてすごく先進的な地域であったというような面も少し盛り込んでいくと、よさに気づけることもあると思います。

【奥平座長】

ありがとうございます。

確かに、函館人の特徴として地元を愛するがために、地元の悪口しかいわないという所がございます。

それを直してくためにも小学生のうちから、函館は凄い所なんだということはこの事業を通じて、きっかけになるようなものを作っていければいいのかということをお今日は強く感じております。

他に何かございませんでしょうか。

お時間もいいお時間になってきましたので、それでは、そろそろ終了の方に入っていきたいと思っております。

次回の内容ですが、「歴史・人物・産業」の絞り込みという話ですけども、いきなりその場で絞り込んでいくのは厳しいのかなという感じがありますので、事務局の方でたたき台をご用意いただくのがいいのかなと思います。事務局の方

でご検討願います。